

# もじばら

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です

題字・持田日男眞首親下

第28号

発行日 平成24年 3月20日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201

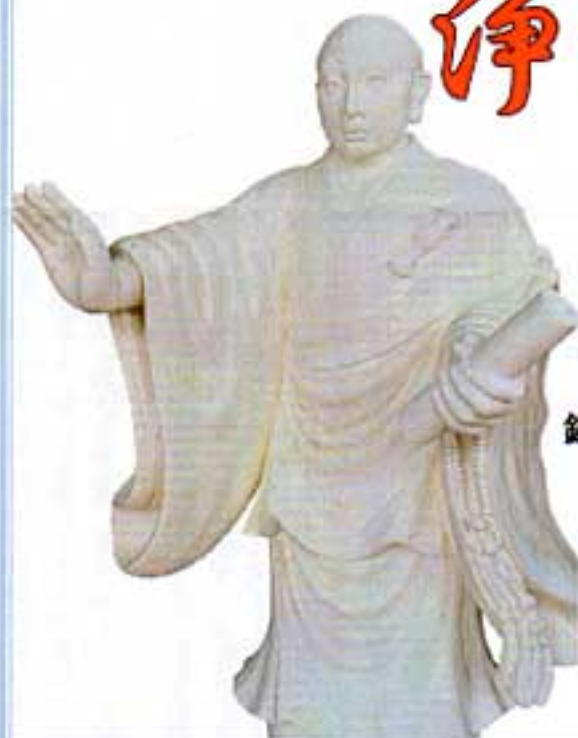
日蓮宗東身延 本山深原寺

TEL. 0475-22-3153

発行責任者：増田 寶泉 総務執事

## 掲示板

# 日蓮大聖人大銅像建立 浄財勸募中



日蓮大聖人の大銅像を建立致します。

当山の檀信徒並びに

各寺院の御住職、檀信徒の皆様方、

銅像建立に賛同していただける方々の

ご協力を心よりお待ちしております。

お早めにお申し込み下さいますよう

お願い申し上げます。



## 貫首様のお言葉

日蓮大聖人大銅像の十分の一の縮小銅像の建立奉告文



仏祖三宝、諸天善神の知見照覧を請い奉り、一会の法要を献酬し以て日蓮大聖人大銅像の十分の一の縮小銅像建立開眼の式典に儀し奉る。

当山は第二世門祖日向聖人第七百遠忌を平成二十五年九月三日に迎えるに当たり、報恩謝徳のために日蓮大聖人の大銅像建立を発願せり。

平成十八年八月三十日に翠雲堂と初めて打合せを致し、三度にわたる検討の結果、平成十九年五月十五日の総代会に於いて原案を示し、日蓮大聖人大銅像建立の案を諮りたり。

以降十一月十五日迄に三回の役員会を開いて議を重ね、建立する方向を決定し、その具体化に着手せり。

平成二十年一月十五日に総代改選による新総代会議を開催し、討議の結果、設置場所は従

来の案の駐車場奥の地から藤原山上に変更せり。

当初、日蓮聖人立正安国論奏上の御年三十九才に因み、銅像は高さ三十メートル、台座は十九メートルとする全体で三十九メートルの構造体を予定せるも、十二メートルの山上に建築するため、茂原の地に来駕された三十二才の御年を記念し、お題目初唱の霊場として、銅像の高さは変更せざるも、台座は十二メートルと改めたり。

銅像の原型は既に、日本芸術院会員で日展理事である川崎善照先生に委嘱してあり、視しく現物を見て検討し、平成二十一年の春に一メートルの石膏像が完成し、平成二十二年春には二メートルの原型が完成せり。

台座の中に納骨施設を作る案を決定し、概略の意匠設計は翠雲堂設計部によって提案されたり。

同年八月二十二日に日向聖人第七百遠忌報恩記念事業奉賛会を発足させ人事等を決定せり。建設地は華経殿の裏山五百坪としたり。然るにその地は当山所有地であつてもすでに公園用地に編入されており、その返還を求めて茂原市を通じて千葉県と折衝せり。結局代替地を提供することによって平成二十二年十月二十七日に変更が了承されたり。

建設資金を七百遠忌にちなんで七億とし、平成二十二年十二月末に寄附金の勧募に踏み出せり。

然るに平成二十三年三月十一日突如東日本大地震が発生し、その影響による大津波は東北地方に死者、行方不明者二万人弱におよぶ大被害を与えたり。

更に福島第一原子力発電所の事故は広く放射能汚染を及ぼし、その収束は緒に就いたばかりにして、未だ方策も具体化せず、暗い影を残すのみなり。

世界経済はリーマンショックから立ち上げられぬところにヨーロッパの金融危機の恐れによつて不安定化をさらに増し、それらの影響による円高は日本経済にデフレによる悪影響を及ぼせり。

よつて檀信徒の協力の動きは遅く、現在の中込金額は一億二千四百万円余なり。

ここに今般本久寺住職持田貫信師の浄願により、二メートルの石膏原型を元として大上人銅像の縮小銅像を造り、日毎膝下にぬかずき一日も早い大銅像建立のための協力の高まりを冀う者なり。

沙門某、仏天の加護を疑はざれの聖訓を体して心力堅固にして日々の精進を致すのみ。

願わくは佛祖三宝諸天善神哀愍加護の御手を垂れこの浄業の速やかな完成を擁護せさせ給え。南無妙法蓮華経。

惟時 平成二十四年二月十五日

本山 常在山 藤原寺

第九十二世 本壽院日勇 和南敬白



# 行事記録

## ○御頭講会

(平成二十四年一月八日)

当山貫首持田日勇現下を大導師、実相寺山主  
島山慧浄僧正と当山總務執事増田寶泉僧正を  
副導師に御頭講会を厳修いたしました。  
法要は裏千家稱沢宗良様による献茶に始まり、  
増田總務による御頭講会縁起由来が述べられ、  
貫首現下による鳴弦の儀が行われました。  
読経の後、『兼六園松尽くし』が松本勇子様  
よって奉納されました。  
法要後に曳馬式が行われ、栗鹿毛の馬に貫首  
現下を筆頭に好物の人参を食べさせました。



## ○節分追儺祈禱会

(平成二十四年二月三日)

快晴の中、当山貫首を大導師に節分追儺祈禱  
会が厳修されました。  
福茶献上を安藤静男様、福豆献上を木嶋政行

様が行い、誓詞を観光協会会長の麻生正親様  
が言上しました。

読経の後、修法師による福祿倍増、年中無難  
の祈禱が行われました。唱題の響く中、今年  
の歳福男福女が法水を頂戴しました。

法要終了後、多くの人で賑わう中、大堂前に  
て貫首現下の「福は内」のかけ声と共に福豆  
やお菓子、景品番号が書かれたボールが撒か  
れ、景品交換が行われました。

## ○弁財天大祭

(平成二十四年二月十四日)

茂原弁財天運営協議会協力のもと、弁財天の  
大祭を厳修いたしました。雨天の為、茂原公  
園ではなく菫庭殿に弁財天様を移しての法要  
となりました。

商工会等約三十人の参列者とともに茂原市の  
商工発展と市民の幸福を祈り、弁財天の初祈  
禱を行いました。

## ○稲荷大祭

(平成二十四年二月十五日)

伏見稲荷、成家稲荷の前にて節分直後の午の  
日に因み稲荷大祭を厳修いたしました。

常在講の方々が参列の中、持田日勇現下御導  
師の下厳修いたしました。

## ○縮小銅像開眼式

(平成二十四年二月十五日)

日蓮大聖人大銅像の十分の一の縮小銅像の開

眼法要が約四十名の参列の中厳修されました。  
初めに増田總務、安藤総代、翠雲堂、鈴木組、  
房総緑化代表による除幕が行われました。  
修法師による祈禱の後、当山貫首現下による  
奉告文が言上され、大銅像の早期建立が祈願  
されました。



## ○東日本大震災一周忌追悼法要

(平成二十四年二月十一日)

当山貫首を大導師に東日本大震災水難犠死の  
諸精霊の一周忌法要を厳修いたしました。

法要には約三百名の方が参列し、堂内に入り  
きれない程でした。

法要中、茂原市長田中豊彦様による追悼の詞  
が言上されました。その後、筆頭総代安藤藤  
勇様から茂原市長田中豊彦様に、塔婆供養料  
と大堂前に行なった募金の全額を義援金と  
して委託する目録が贈呈されました。

法要後、茂原混声合唱団「四季」による鎮魂  
の歌が歌われ、参列者は耳を傾けていました。  
演奏後、仏殿にて清冥が行われました。



## 日蓮大聖人銅像寄附奉納者一覧

日蓮大聖人銅像建立に御協力頂きありがとうございます。  
 ございました。今後とも宜しくお願いいたします。  
 (肩書きのないのは当山檀信徒です。)

平成二十三年十二月十六日

平成二十四年二月二十九日

申込金額	寺院名	芳名
一千万円	妙源寺住職	増田實泉殿
五百万円	一乗院住職	内山堯邦殿
"	正蓮寺住職	大塩孝信殿
三百万円	鏡濟寺住職	中川貫泰殿
五十万円	法妙寺住職	神藏義一殿
"	瀧泉寺住職	谷口憲久殿
三十万円	"	加藤節子殿
"	"	久我 任殿
二十万円	東照寺住職	秋山富郎殿
"	"	兼子孝純殿
"	"	榎本武久殿
"	"	佐久間よ志子殿
"	"	宮内富美殿
六万円	(六回日計十七万)山本ウメ子殿	
五万円	福相寺住職	堀越顕晴殿
一万五千元	(五回日計七万)	鶴澤信夫殿
一万円	参拝者	鈴木順雅殿
"	参拝者	鳴海持敬殿
合計金額		二千五百三十四万七千円
総計金額		一億三千九百十七万円

## 行事案内

四月一日 (日) 十一時

華経房大祭

四月八日 (日) 十一時

花祭り・音楽会

五月十二日 (土) 十二時半

お題目初唱会

六月一日 (金) 十六時

宗祖御更衣式

七月二十七日 (金) 九時

ホウロク灸

八月十五日 (水) 九時

五箇盆施餓鬼法要

## 奉納

本久寺住職 持田貫信様

日蓮大聖人大銅像の十分の一の縮小銅像



## 門祖日向聖人第七百遍忌

記念事業概要

平成二十五年十月三日 (木)

日向聖人第七百遍忌音楽大法要 於、大堂

大導師 身延山法王

内野日総親下

平成二十五年十月五日 (土)

講演会 於、茂原市民会館

第一部 東京大学教授

養輪顯量先生

「日本佛教の特色と将来」

第二部 千葉大学名誉教授

佐藤博信先生

「茂原地域における法華信仰の展開」

平成二十五年十月六日 (日)

音楽会 於、茂原市民会館

オラトリオ日蓮聖人

演奏 茂原交響楽団

指揮 土田政昭氏

合唱 茂原混声合唱団 他

指揮 中川知夫氏

記念出版

「茂原寺宝物目録」の発行